

平成27年3月1日発行（隔月発行）Vol.724号

“経営に知恵と革新”

マネジメント コンサルタント Management Consultant

3・4
月号

March 2015

会長の提言
平成27年新春懇談会開催
特集「MPPを語る」



平成27年 新春懇談会開催される



一般社団法人 日本経営士会

第49回全国研究会議は成田で開催！

観光振興により、地域の創生へ！

政府は、平成27年度予算概算に「地方創生」をテーマとした仕事創造、観光創造の二つの輪を打ち出しました。

人口減少・少子高齢化などの社会環境の変化や経済情勢の移り変わりの中で、今、地方自治体は向こう5年間の競争のスタートラインに立っています。これまで地方経済を支えてきた公共投資も減少傾向にある中、やるべきことは、地域資源を活用した経済の活性化しかありません。

そうした中、千葉県では首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の開通、成田空港の機能強化、そして2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催決定など、観光資源にとって大きな追い風が吹いています。このチャンスを最大限生かした観光振興を通じ、官・民が一体となった新たな創生活動が求められています。

成田大会では、千葉県及び関係機関よりご参加を募り、各界よりこの地方創生に向けた提言を頂き、自らの変革につながる大会を目指して準備を進めて参ります。

また、研究論文では「地方創生」をテーマにした応募で、会員の皆様多数のご参加をお待ちしております。研究論文応募要領は、別途、日本経営士会本部からご案内致します。

平成27年3月 千葉支部長 西村 豊

- 会 場 ANAクラウンプラザホテル成田
成田空港駅または空港第二ビル駅からホテルバス
銀座駅・東京駅から成田空港近隣ホテル行きバス
- ◆宿 泊 ANAクラウンプラザホテル成田
- ◆開 催 日 平成27年10月11日（日）、12日（月祝）
- ◆主 催 一般社団法人日本経営士会 千葉支部

〒275-0022 千葉県習志野市香澄5-1-17
TEL : 080-5484-0900 URL : <http://keieishi-chiba.org/>



目次

1. 会長の提言 会長からの提言	2
2. 新春懇談会 中小企業支援のための26年補正予算(補助金)の紹介	4
3. 認定支援機関だより 経営改善計画立案後1年目のモニタリング終了報告	7
4. MPP MPPの魅力と活用について	8
5. 総研だより 第4回「プロ・コンサルタント育成講座」スタートする	12
6. 委員会だより 経営士資格取得試験受講者紹介のお願い	13
7. 女性経営士の会 女性経営士の会 NJK 活動報告	14
8. オーシャンズ 「オーシャンズ第12回定例会」の実施	15
9. 訃報 岩城秀晴先生のご逝去を悼みます	16
10. 支部活動報告 北海道支部で高橋会長と意見交換	17
東北支部活動報告	18
2014年度第4回 茨城県会公開MPP 開催結果	20
「中小企業会計啓発・普及セミナー」の開催	21
「彩の国ビジネスアリーナ2015」に出展	22
TAMA 研平成27年1月度研修会でシンポジウム開催	24
テクニカルショウヨコハマ2015に日本経営士会が出展しました	25
新春特別講演&賀詞交歓会	26
「神奈川県行政書士会」と提携企業経営管理講座を開講	27
新年賀詞交歓会「記念講演」	28
平成27年賀詞交歓会開催	29
11. 会員の活動だより 台湾・徳明財經科技大学で「〇△□でわかるドラッカー」の講義。大成功理に終わる	30
12. 支部活動予定 支部研究会参加募集案内	31
支部研究会開催予定	31
13. インフォメーション	32

《表紙の写真》

平成27年1月27日(火)
六本木ヒルズクラブで
開催



一般社団法人日本経営士会は、歴史ある経営コンサルタント団体で、「経営士」は、さまざまな分野で日々研鑽を積みながら、経営支援活動に取り組んでいます。経営等のご相談には、各分野のプロフェッショナルが、豊富な経験と実績をもとに対応します。日本経営士会の活用と入会をお勧めします。

マネジメントコンサルタント (Management Consultant) 奇数月発行
発行所：一般社団法人日本経営士会 <http://www.keieishikai.com>
〒102-0084 東京都千代田区二番町12-12 B.D.A.二番町ビル5階
電話：03-3239-0691 ファックス：03-3239-1831
印刷・製本：(株)双文社

会長からの提言

会長 高橋栄一



■年初に各種の賀詞交歓会に出席して感じたことは、経済界の方々は、アベノミクスの経済効果が、地方に及んでいないこともあって、「地方創生（まち、ひと、しごと）」に強い期待を寄せられています。また、消費税10%増税の実施が延期されましたが、29年4月からの実施に向けて、今年度積極的な国家予算が組まれることで、経済は良くなると思われれます。

■1月開催された、本会主催の新春経営懇談会では、経済産業省関東経済産業局企画課長勝本光久様をお招きし、中小企業に対する26年補正予算と27年度施策について、講演をお願いしました（詳細については、本誌別掲をご覧ください）。

勝本課長は、

(1) 今後の中小企業・小規模事業者政策について

(2) 26年度補正予算の目玉に

①ものづくり補助金 ②小規模事業者持続化補助金 ③創業・第二創業補助金などの補助金がある。

(3) 商工会議所・商工会による小規模事業者事業計画作成支援などを紹介されました。

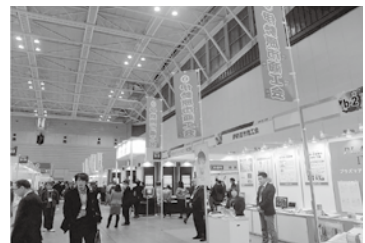
これらの施策が実施されることによって、経営士の中小企業支援業務の機会が増加するものと思います。詳細は、中小企業庁や経済産業省各地区などのホームページを検索してください。「ものづくり・商業・サービス革新補助金」の1次公募は2月13日～5月8日となっています。

■先日テクニカルショウヨコハマ2015を見学しました。

中小企業支援機関である各地区の商工会議所、商工会、中小企業団体中央会、中小企業産業振興公社、工業会などが、傘下の会員等の出展をバックアップしていました。

また、保証協会が、専門家を派遣して、経営改善計画の作成をPRしていました。中小企業支援機関の熱心さが伺えました。

本会も中小企業支援活動に積極的に取り組む必要性を感じました。



(テクニカルショウヨコハマ2015)

■国は中小企業の海外進出を昨年より、10,000社掲げています。1月に台湾・台北市に7年ぶりに行ってきました。日本の飲食店、菓子店、コンビニなどの商業・サービス業が、多く出店していることに驚きました。日本企業の海外進出の意欲が高いことを感じました。

■本会の強みは次を挙げることができます。

1. 経営士全国研究大会を開催している。2. ビジネス・イノベーション・アワード表彰制度がある。経営コンサルタントの団体でアワード制度があるのは、本会だけです。3. 経営士・経営士補養成講座を実施している。4. MPP研修制度がある。5. 認定経営革新支援機関である。全国組織での認定機関は本会だけです。

などがあります。

1. 会長の提言

この中で、本会が開発した MPP 研修は、意外に会員に活用されていません。

会員に活用されない理由を尋ねると、ケースが古いという声が多かったです。それがネックになっているのであれば、新しいケースを作成すれば良いわけです。早速、櫻井 MPP 委員会担当理事に、ケースづくりの推進をお願いしましたが、会員皆様のお力添えも必要です。MPP は会員のスキルアップに大変役立ちます。また中小企業経営者や幹部にも役立ちます。私自身が中小企業管理職を対象に MPP を開催したところ、自社をケースと比較しながら、気づきが生まれ、大変好評でした。

今回号では、MPP の良さや活用方法を会員に具体的に語ってもらいました。活用しなければ古紙です。是非会員の皆様の内外での活用をお願いいたします。

次に経営士・経営士補養成講座は、40 年以上の歴史のある本会の看板講座です。

この養成講座に全国から多くの受講生が受講されて、経営士が生まれました。

受講者の利便性と受講費用の軽減を図るために、3 年前から、本部だけの開催でなく、支部での開催も進めてきました。現在、国内 12 支部の内、実施済または企画中が 10 支部となり、ようやく軌道に乗ってきました。この養成講座は、経営士養成の目玉となっていますが、支部の結束力の向上と会員のレベルアップに役立っておりますので、引き続き積極的な開催をお願いします。

この講座のプログラムは、経営の実践を学ぶことができますので、中小企業や各種団体のニーズにあった内容に編成して活用できます。例えば創業育成講座、工場長育成講座、管理職育成講座、社長育成講座に応用することができます。

南関東支部では、ある中小企業メーカーに、工場長育成講座を提案し、現在取り組んでいます。また神奈川経営支援センターでは、神奈川県行政書士会向けに「企業経営管理講座」と銘打って開催し、好評でした。

■最後になりましたが、北海道支部の岩城秀晴会員が 1 月ご逝去されました。岩城会員には、昨年 6 月より本会の顧問に就任いただいておりますが、前監事として、北海道前支部長として長年にわたり本会の発展にご尽力いただきました。ここに心よりお悔やみ申し上げます。

<うれしいお便り>

○神奈川経営支援センターでは、テクニカルショウヨコハマ 2015 に出展しました。ブースでミニセミナーを開催し、本会のビジネス・イノベーション・アワード受賞企業に講師となっただき、好評で満席になりました。

○山梨経営支援センターは MPP 外部活用で、今年度 10 回の受注ができました。

○ビジネス・イノベーション・アワード 2013 大賞のフジプロダクト（株）様は、難関の「新連携」に認定されました。2 月 9 日秦野市長に報告を行いました。

市長から、「地域の中小企業に新しい事業の取組みが増えることを期待したい」との発言がありました。

*新連携とは、「中小企業新事業活動促進法」に基づいて、中小企業者等が連携して、新商品・新サービスの開発や需要の開拓を図るものです。



(市長と認定関係者)



(市長に新連携の内容を説明)

平成 27 年 新春経営懇談会開催

平成 27 年 1 月 27 日（火）東京・六本木ヒルズクラブにおいて平成 27 年新春経営懇談会が開催されました。第一部では高橋会長の挨拶の後、経済産業省関東経済産業局企画課長勝本光久様が「経済産業省の中小企業支援策の紹介」と題し講演され、1. 成長戦略から読み解く中小企業支援策の方向性、2. 補助金制度について、3. 海外展開活用施策について、4. 経済産業省の表制度について、26 年度補正及び 27 年度予算案をご紹介いただきました。次に、ビジネス・イノベーション・アワード 2014 優秀賞受賞企業笹生農園「レストラン栗の里」経営広報部長宮脇昇一郎様が「農家がレストランに挑戦」と題しご講演いただきました。専業農家から地元のおいしいお米を提供したいとの思いでバーベキューレストランをオープンし地元顧客の獲得に成功し経営は軌道に乗っていたが、周辺に次第に大手レストランチェーンの進出で顧客が減少してきた。「早い、安い、うまい」というコンセプトからの脱却を図るため、顧客参加のコメ作り、女性店長の採用、そして現在最大の売り物として 100 種 500 株のバラ園を開園した。今では観光コースとしても取り入れられ、着実に顧客、売り上げアップにつながる若い行動力とアイデアに満ちた経営戦略を披露していただきました。

昼食をはさんだ、第二部では弁護士（元大蔵省大臣官房審議官）ビジネス・イノベーション・アワード審査員墳崎敏之様のご挨拶で始まり、中野専務理事が本会の活動報告後、参加者による恒例の 3 分間スピーチが行われ、新年にあたっての力強い抱負がたくさん聞かれました。



(勝本企画課長)



(宮脇経営広報部長)



(名刺交換も盛んに行われた)



(六本木ヒルズクラブからの風景)

中小企業支援のための26年度補正予算（補助金）の紹介

1. 補助金の紹介

今回多くの補助金がありますが、その一部を紹介します。

(1) ものづくり・商業・サービス革新事業 平成26年度補正予算額：1,020.4億円（補助率2/3）

①革新的なサービスの創出

・一般型：補助上限額：1,000万円。 ・コンパクト型：補助上限額：700万円。

②ものづくりの革新：補助上限額：1,000万円。

③共同した設備投資等による事業革新：補助上限額：5,000万円（500万円/社）。

(2) 小規模事業者の持続化支援 平成26年度補正予算額：252億円（補助率2/3）

①小規模事業者が商工会・商工会議所と一体となって取り組む販路改革の費用 補助上限額：50万円。

・複数の事業者が連携した取り組み：補助金上限額500万円。

・雇用対策・買い物弱者対策への取組を行う事業者に対しては重点的に支援：補助金上限額100万円。

②既存の商圏を超えた広域に販路を拡大しようとする小規模事業を対象に、物産展や商談会の開催、国内外のアンテナショップやインターネットによる販売支援。

(3) 創業・第二創業促進補助金 平成26年度補正予算額：50.4億円（補助率2/3）

①創業者・第二創業者向け補助金

・新たな需要を創造する新商品・サービスを提供する創業者に対して、店舗借入費や設備費等の創業に要する費用の一部を支援します：補助上限200万円。

・事業承継を契機に既存事業を廃業し、新分野に挑戦する等の第二創業者に対して、人件費や設備費等（廃業登記や法的手続費用、在庫処分費等廃業コストを含む）に要する費用の一部を支援します：補助上限1,000万円。

②創業者支援向け補助金

産業競争力強化法における創業支援事業者が、認定創業支援事業計画に基づき行う創業者支援の取組（創業者への継続的な経営指導やビジネススキルアップ研修、ワーキングスペース※運営事業等）に対して支援します：補助上限1,000万円。

(4) ふるさと名物応援事業：平成26年度補正予算額 40億円

①「ふるさと名物」支援事業

・中小企業・小規模事業者が、地域資源活用や事業者連携により行う商品・サービスの試作開発等の費用を補助します：補助上限500万円等（補助率2/3）。

2. 新春懇談会

- ・小売事業者等が行う、「ふるさと名物」などに関する消費者嗜好の把握や、特徴を活かした販路開拓等の取組の費用を補助します：補助上限 1,000 万円（補助率 1/2、2/3）
- ・中小企業グループによる地域資源を活用した「ふるさと名物」などのブランド化のための取組等の費用を補助します：補助上限 2,000 万円（補助率 2/3）。
- ・地域の関係者を巻き込み、地域の特色を活かした産品をブランド化する人材などの育成や、「ふるさと名物」を戦略的に情報発信する取組を支援します（定額補助）

②地域資源海外販路開拓支援事業

- ・海外市場に精通した海外の専門家を招聘し、海外向け産品を開発する取組を支援します（定額補助）。
- ・地域支援機関のネットワークを活かした海外ミッション派遣等の費用を補助します：補助上限 2,000 万円（補助率 2/3）。
- ・海外販路開拓に関わる知見等を有するプロデューサー等を全国に派遣し、ものづくり、食、観光等の地域資源を発掘するとともに、海外販路開拓に向けた取組を支援します（定額補助）

(5) 事業継承の円滑化：平成 26 年度補正予算額 24 億円

①中小企業新陳代謝円滑化普及等事業

平成 27 年 1 月相続税引下げ、事業承継税制拡充の施行、小規模企業共済制度の見直しなどにあわせて、事業承継・廃業などに関する施策・制度の講習会・説明会の開催や、個人相談員の派遣などを行います。

②事業引き継ぎ支援事業

後継者不在等の問題を抱える中小企業・小規模事業者の課題解決に向けた適切な助言、情報提供及びマッチング支援等をワンストップで行う「事業引き継ぎセンター」の全国展開を図り、事業引き継ぎや事業承継の促進・円滑化を支援します。

2. 補助金等の活用における注意点

- ①公募期間（2 週間～1 か月）：準備期間が短いため、事前の情報収集が大事。
- ②精算払い（後払い）：原則として、事業終了後に実際に発生した費用が支払われる。
- ③事業期間：交付決定後～事業期間内に発生した費用しか補助金対象にならない。
- ④事務処理、証拠書類の整理：報告書の提出、支払証憑類の整理が必要。
- ⑤収益納付：補助金事業終了後 5 年間、補助事業の成果の事業化等により、収益が得られたと認められる場合には、収益の一部を納付しなければならない。

※詳しくは中小企業庁HPのミラサポ、補助金事業公募一覧を検索してください。

経営改善計画立案後 1年目のモニタリング終了報告

平成 26 年 12 月 19 日、横浜銀行小田原支店でバンクミーティングが行われた。

この打ち合わせは、認定支援機関として日本経営士会が対応を開始した第 1 号の企業のモニタリング経過 1 年目の報告を兼ねたものであった。

平成 25 年 7 月に依頼を受け経営改善計画を立案作成し、平成 26 年 2 月に金融機関の合意を受け 1 年間のリスク（借入金弁済条件変更）が開始された。バンクミーティングの要請は経営改善計画に基づき平成 27 年 1 月から一部元本返済を開始する為である。今期（平成 26 年 1 月 1 日～ 12 月 31 日）の経営改善計画より利益が上ブレしており問題なく次年度の計画が実行出来る事を説明した。

社長から「日本経営士会 経営支援アドバイザーのおかげで会社が光ってきました。」と言って頂いた時は、この仕事に携われて本当に良かったと充実感を味わった。

経営改善計画実施モニタリングは、平成 26 年 4 月から毎月実施し「企業内のコミュニケーションと情報の共有化」を目指した。特に販売のポイントは、利益率の高い仕事に人員と時間

を集中させ社内生産高を上げる事を目標にした。途中キーマンの退職や計画には無い設備更新などがあり、金融機関からの問い合わせもあったが、行動確認と期限の厳守を継続した結果、利益改善が出来たと考えている。勿論冷静に対応された副社長の存在が大きかったと言える。

平成 27 年 1 月から 2 年目のモニタリングに入り、この間に神奈川経営改善支援センターからの支援補助金が入金された。平成 27 年度の国の予算も公開され、認定支援機関として中小企業・小規模事業者への支援が益々求められてきている。

【お知らせ】

「日本経営士会 経営支援アドバイザー養成講座」を 5 月 30、31 日に開講致します。

この講座では、今回モニタリング 1 年目を終了した実績の経過説明及び使用した資料を全て開示した中で実施致します。経営士の皆様には、是非この機会に受講頂きたいと考えます。詳細はホームページをご覧ください。

（経営士総合研究所 運営委員

経営支援アドバイザー 青樹道弘）



（前回の経営支援アドバイザー養成講座の様子）

MPPの魅力と活用について

今回、日本経営士会が開発したMPPについて、櫻井ミスMPP担当理事と、塚本裕有会員（北関東支部）、川崎隆夫会員（東京支部）、近藤安弘会員（南関東支部）の3人の会員様にMPPの活用や、研究の意義、また外部活用などMPPの魅力について語っていただきました。

- ・MPP (Management Professional Program) は、一般社団法人日本経営士会が開発したケースメソッドによる、経営能力開発プログラムです。
ケースメソッドは、実際に起きた事例（ケース）をリーダー、レコーダーを選出し、チームで討議することにより、最善策を導きだすための共同研究活動です。

●塚本裕有会員への質問

櫻井理事：塚本会員は、長年MPPの委員をされ、また、北関東支部でもリーダーとしてMPPの開催に携わり、ご尽力いただいております。
MPPについて基本から詳しく解説、ご説明頂きたいと思います。

質問1：MPPを広く活用されるためには、多くの会員にMPPリーダーになっていただきたいと思っています。MPPリーダーになるにはどうすればよいですか。

回答1：全国各地で開催のMPPに参加すると1回ごと、1ポイント取得となります。そのとき板書役としてレコーダーを担当すると、大切な役目であり、1回につき2ポイント取得となります。レコーダーは参加者の合意により、誰でも担当できます。累積20ポイントで、同養成研修への参加資格付与となります。なお、累積10ポイントで、支部長推薦があれば、MPPリーダー養成研修への参加資格付与となります。MPPリーダー養成研修を受講すれば、MPPリーダーになることができます。
不明点は、身近なMPPリーダーに尋ねるのが、理解の近道です。

質問2：ケースを会員が作ることはできますか。

回答2：会員なら誰でも新しいケースを作ることができます。作成したら、身近な県会や支部等でトライアルケースとして試してください。北関東支部では、各県会持ち回りでMPPを開催、ケース作成の機会にしています。身近な企業等の組織や市場公開の企業が参考になります。

質問3：MPPを成功に導くために、事前に周知しておくことはありますか。

回答3：・突然の案内では参加しにくいので、定期開催等の年間計画の事前提示が大切です。
会場の事前確保、毎回同一時間帯での開催が適切でしょう。
・開催1か月くらい前に改めて周知することも大切です。積極的に参加のお勧めはするが、無理強いは避けた方がよいでしょう。
・どのようなケースを使用するか、題名を事前提示した方がよいでしょう。コンサルティングでは、通常企業概要等の事前提示があります。
・経営数値を詳しく分析するようなケースは避けた方がよいでしょう。
・言うは易く、行うは難しいですが、参加者を各方面に求めるのが適切です。
だめもとてもよいから、幅広い呼び掛けをする日頃の努力が大切です。

質問4：MPPに参加された方はどのように感じておられますか。

回答4：参加された方から次のような感想が寄せられています。

4. MPP

会員外の外部参加者の生の声を示すのが適切であり、以下に示します。

- ・限られた情報の中で、様々なイメージが可能性としてあることに、意欲的に関わる自分を見出すことができました。
- ・様々な企業や社員・学生や求職者と関わる仕事をする上で、ケーススタディ形式で経験が重要であるという考え方と、ケースメソッド形式で学ぶことにより、多様な場面に対応していく、双方から物事の捉え方や見方を常に心がけておりましたので、学びの深い1日となりました。
- ・専門的な知識や、経営者の自分の体験を基にした意見など、自分にはない思考法に触れられとても刺激的だった。世代の異なる方々と同じテーマで話をする機会は、普段の生活の中になく、貴重な機会である。
- ・講師の話聞くこともよいと思うが、一つのテーマに沿って参加者全員で話すという手法は、双方向のコミュニケーションであり、自分の考え方が整理でき、他者の考え方に触れられ、非常に面白い。
- ・自分の知識やコミュニケーションスキルは誤魔化しようがなく、そういった意味でも、真剣に参加し、能力の向上に役立ちそう。



(茨城県会でのMPPの塚本会員)



(川崎会員)

●川崎隆夫会員への質問

櫻井理事：川崎会員は、平成26年の6月にご入会され、MPPに、1回参加されたとお聞きしました。また、外部の能力開発研修会等に参加された経験があると伺っています。外部との違いなどを中心にお話しを伺います。

質問1：日本経営士会のMPPに初めて、参加されてのご感想をお聞かせ下さい。

回答1：私がMPPに参加いたしましたのは、「経営士養成講座」の中で受講させていただいた、短時間のトライアル講座だけですので、MPPを理解しているとは到底言えませんが、MPPは、中小企業を題材としたオリジナルケースを使用した「ケースメソッド」で学習する手法である、との説明を伺っていました。マネジメント・コンサルティングスキルを体系的に習得するには、極めて実効性が高い学習手法を採用されている、と思いました。

質問2：新入会員にも役立ちますか。どんなケースがあつたら、役に立つと思いますか。

回答2：ケースメソッドは、コンサルティング経験の浅い新入会員の方にとって、コンサルティングスキルを短期間で向上させることができる、極めて合理的な学習方法であると思います。

なお、ケースについては、著名ビジネススクールが発行するビジネスケースのように、数十頁に及ぶものである必要はなく、情報がコンパクトに集約されているMPPのようなショートケースで十分ですので、様々な業種やジャンル（経営戦略、マーケティング、財務など）を題材としたものを多数用意し、参加者がパリエーションに富んだケースを、数多く体験できる場を提供することが大切だ、と考えています。

質問3：ほかの能力開発研修会にご参加されての感想をお聞かせ下さい。経営士会のMPPとの違いなどについてお聞かせください。

回答3：私は、経営大学院のMBA課程や、各種教育団体等が主催する経営関連セミナーなどの受講経験を通じて、延べ百本以上の「ケーススタディ演習」を体験しています。ケースメソッ

4. MPP

どの良さは、講師の先生からの学びだけに留まらず、討議を通じて、他の受講者の「モノの見方、考え方」に触れ、他の受講者と自分自身の「思考のクセ」との対比を通じて、自らの「思考の偏り」を是正し、「思考の幅」を広げられることにある、と思います。

一方で、MBA等のケースで扱う企業は、グローバル企業や上場企業のものが多い傾向に多く、かつ殆どのケースに膨大なデータが記載されているため、必ずしも経営資源に乏しい日本の中小企業の課題解決にフィットするものばかり、とは限りません。しかしMPPは、日本の中小企業の経営課題解決等に有効な事例を、コンパクトにまとめたケースを使用している、と伺っていますので、MPPをうまく活用された場合、中小企業経営課題解決や経営革新支援等のために有効な「問題解決スキル」を、効率的に習得することが可能になるだろう、と考えています。

質問4：今後、経営士の活動にMPPをどのように活用したらいいとお考えですか。

回答4：私は、主にミドルマネジメント層を対象とした公開セミナーや企業研修での指導に「ケースメソッド」を取り入れ、ご好評をいただいています。セミナーや企業研修の受講者に「ケースメソッド」が好評なのは、レクチャーで学んだ経営理論、フレームワークなどを、ケース企業の事例に当てはめて考えてみることで、学習内容を体系的に整理することができ、受講者の職場の業務改善などに活用できるイメージを持てるようになるからだ、と感じています。

経営士としての活動にMPPを活用するには、まずは中小企業の経営者等に対して、管理職層などのマネジメントスキル強化を目的とした「実践型研修の実施」を提案し、その中で、受講者に「MPP演習」を実際に体験していただくことを通じて、MPPの学習効果を実感していただくのが近道だ、と思います。

その後指導先企業に、MPP研修受講者をコアメンバーとし、新規事業の創出や経営革新計画の作成等に取り組む「経営改革プロジェクト」等の組成を提案し、MPPで活用した各種フレームワーク等を用いて、プロジェクトメンバー自らが、自社の新規事業案や経営革新計画等を作成していくプロセスを、経営士がナビゲートしていく、といった「共創型コンサルティングへの展開」が、経営士によるMPP活用方法の一つになるのではないかと考えています。

●近藤会員への質問

櫻井理事：近藤会員は、「会員外への普及のためのリーダー登録」に登録され、外部に向けて熱心に経営士会のMPPを普及されていますね。外部活用を実施されての感想やご意見を中心にお話しを伺います。

質問1：MPPをツールにして、中小企業にどのように活用していただいていますか。

回答1：「山梨県地域人づくり事業」で自動車ディーラー・電子部品メーカー・スーパーマーケット等の主に中間管理職の方々に広めています。近い将来、昇進研修の一部に組み込みたいと考えておられる会社もあります。また福祉事業所での中堅職員の能力向上に役立っています。ルーチンワークの基本業務から出発し創造性業務へのウエイトが高まる中間管理職にとっては有効な研修ツールだと思います。

質問2：MPPを外部活用された企業のご意見はいかがですか。MPPに参加された受講生の感想はいかがですか。

回答2：MPPを企画した企業・受講生から下記のような意見・感想が寄せられました。

①自動車ディーラー：

(企業側) 営業研修を重点的に実施してきましたが、セールスパーソンには一度立ち止まって「考

4. MPP

える」ということをやってもらいたいと考え MPP の導入をいたしました。

(同受講生) メンバーから全てポジティブに、プラスに考えていくという話がありとても感銘を受けました。また1つの事に対して複数人が取り組むことの楽しさ積極的に意見を言う難しさ、じっくり考えていく時間がとても楽しいものでした。

②福祉事業所：

(施設側) 施設責任者は出張していることが多く、地震・火災・大雪等いざという時は中堅職員が自ら判断して行動しなければなりません。リスクマネジメントの観点から MPP は判断力の向上に役立ちます。

(同受講生) MPP の実施によって物事の考え方の方法を学ぶことができました。チームで話し合うことによって、自分自身の考え方にとられる事なく多くの人の考えを知る事ができました。

③スーパーマーケット：

(企業側) マンネリ化した一般研修から脱して、業績に反映できる研修を実施したいと思っていました。

(同受講生) 討議していく中でチームメンバーより様々な視点や考え方での改善策が出てきて、自分にはないものがあり新しい発見になりました。日常業務の中で発見できなかった事を今後発見し、対応できるように活かしていきたいと思います。

質問3：経営士会の中で開催する MPP と、外部で開催する MPP の大きな違いは何ですか。

回答3：目的による違いですね。経営士会内部では若手経営士や女性経営士には、できるだけ多くの経営支援の疑似体験をしてもらうため、多岐に渡るジャンルからケースを選定し実施しています。外部では各企業・団体により意向が異なりますので、事前に意向をお聴きして、それに沿ったケースを選定しています。場合によっては依頼を受けた企業に合ったケースを作成しています。

質問4：今後、経営士会の MPP の魅力をどのように広めていきますか。

回答4：日本の教育は知識偏重型で推移してきました。MPP はそこから脱し知恵の創出・洞察力の深堀り・判断力の向上に役立ちます。日本経営士会の MPP の特長は実践的だということです。ですからお客様の要望に応じて、「経営コンサルティング+MPP」とか、「企業一般研修+MPP」というように組合せができるということがメリットです。「知識から知恵へ、さらには行動へ」と展開する MPP の魅力を広めてゆきたいと思います。



山梨トヨタ自動車株式会社様での MPP (リーダー近藤)



(櫻井理事)

◆櫻井 MPP 担当理事より

今回、3名の会員から多くのご意見をいただき、改めて MPP の魅力を感じました。

ケース作成のための「MPP」研究も進め、MPP は、思考のメソッドであり、経営士の使命、役割を再確認致しました。会員の皆様にも積極的に MPP に参加され、その成果を、経営現場における指導において活用していただくようお願い致します。

第4回「プロ・コンサルタント育成講座」スタートする

経営士総合研究所

厳冬の候、1月24日(土)よりオリエンテーションを開始し、2月28日(土)まで13日間の短期集中講座により育成講座の開催をスタートしました。今回は合計7名の受講生のうち、冠講座修了生2名、39期経営士養成講座修了生2名、さらに11月2日に修了した40期経営士養成講座修了生3名の方々は引き続き受講されて、寒さ厳しき折講座のメイン会場である飯田橋の「LEN貸会議室」にて開始いたしました。

高橋会長、鶴岡副会長より受講生への歓迎のご挨拶と本講座の趣旨説明、受講生の皆様に期待と経営士会より挨拶がありました。次に、講師陣より今後の講座の進め方についての説明後に、恒例の特別講演、本講座の特徴、実習先での工場見学や質問の仕方、企業の経営状態の見方や経営分析方法などについて、今後の講座スタートに際する概略説明を行い受講生と熱心なQ&Aを主体にした打ち合わせが行われました。

本講座は、従来までの座学による講座を改良して「実習先企業」を訪問して現場の視察や質問事

項を実習先企業の経営者&監督者と打ち合わせを行い、受講生中心によりコンサルタント業務を講師のアドバイスを得て学ぶ講座を計画し、第4回目のスタートとなりました。

その結果のまとめとして「報告書&ご提案」を作成して実習先企業様の経営者にご提出する本格的なコンサルタント業務をOJT(オン・ザ・ジョブ・トレーニング)による実践に重点を置いた養成講座となっており、他のコンサルタント育成講座に無い製造現場を視察しての実践を主体にした講座として注目を頂いている講座です。

尚、今回の養成講座の修了後も次回以降開催の養成講座の講師助手や講師代行業務などの実践の経験を踏んで、3~5年後には自らが本格的にコンサルタント業務を行えるようなプログラムを引き続き用意しており、今後本講座より多くの優秀なコンサルタントを輩出することを目指しています。今回の機会を第1ステップとして、受講生の皆様の今後のご活躍を期待しております。

(報告者 = 森田喜芳)



経営士資格取得試験受講者紹介のお願い

資格審査委員会

担当理事 小林 祥三
委員長 西 満幸

資格審査委員会は、経営士試験や経営士補試験などの資格試験及び資格制度に関する主要な所管事項について取り扱っています。

経営士は、プロとして経営指導の専門的能力を活かす職業です。本試験では、高いレベルの経営士を求めています。経営士資格取得試験の受験者が年々減少してきておりますので是非とも会員の知人や友人に受験をお勧め戴きたい。

1. 経営士・経営士補試験について

この試験は、日本経営士会の「経営士」に必要な高度の専門知識、経営支援能力並びに適性の判定を目的とします。「経営士」の試験は年2回（5月、11月）に実施しています。

2. 試験方法

試験は、(1)筆記試験 (2)面接試験 (3)経歴審査です。

筆記試験は、受験者全員に課す共通試験（2時間）と専門試験（3時間）からなります。専門試験は経営・生産・販売・人事・財務・情報の6つの専門科目より2科目を事前に選択し受験いただきます。詳細については、本会ホームページの入会のご案内／資格取得方法（「経営士」資格試験要領）をご覧ください。（<http://www.keieishikai.com/admission/shikaku.html>）

[次回経営士資格試験]

- 申込締切：平成27年4月20日（月）[消印有効]
- 試験日：平成27年5月10日（日）
- 試験：Ⅰ、筆記 ①共通試験 ②専門試験（経営・生産・販売・人事・財務・情報より2科目選択）Ⅱ、面接 Ⅲ、経歴審査
- 申込書：受験の手引きなどの資料請求はFAX、メールで下記へ申し込み下さい。
 - ・住所：〒102-0084 東京都千代田区二番町12-12 B.D.A二番町ビル5階
 - ・TEL：03-3239-0691 FAX：03-3239-1831
 - ・E-mail：office@keieishikai.com
 - ・担当者：田中

女性経営士の会 NJK 活動報告

< NJK 活動報告会 開催のおしらせ >

第4回総会 平成27年3月7日(土)
 13:00 ~ 17:00 溜池山王 T-Front ビル
 第1部 基調講演 油井文江 氏
 演題:「時代の課題 女性活躍推進とは」
 WLB からダイバーシティまで
 第2部 活動報告



前佐藤会長の肝いりで発足された「女性経営士の会」もこの3月で活動開始から4年目を迎えます。先に開催された経営士会主催の新春経営懇親会でも、経済産業局企画部の勝本課長様から成長戦略の3つの柱のうちの一つ「女性が輝く社会」が話題に取り上げられました。大企業では確実に歩みを進めている女性活躍推進活動ですが、中小企業においてはまだまだ活躍を阻むものも多く、高い関心を持たれている課題です。今回、基調講演をお願いした油井先生は、ビジネスアワードの選考委員でもあり、ダイバーシティ研究の第一人者でもあります。各支部広報を通して案内を送付しております。是非この機会に会員の皆様のご参加をお願い致します。

性別、年齢に関係なく全会員参加可能です。

*申し込みは FAX03-3239-1831 本部まで

<平成27年度の活動予定>

NJKの年間計画をお知らせいたします。
 各支部、研究会と重ならないよう早めのご予定をお願いします。

3/7	第4回 活動報告会 総会
3/12	自主マネジメント研究会 Vol 4
4/18・19	講師養成講座
5/21	自主マネジメント研究会 Vol 5
7/9	外部向け講演会
8/29	女性リーダーによる MPP in 山形
9/17	自主マネジメント研究会 Vol 6
10/11・12	全国研究会議千葉大会参加
11/19	自主マネジメント研究会 Vol 7
1/21	自主マネジメント研究会 Vol 8
3/12	第5回 活動報告会 総会

<講師養成講座> 4/18・19

プレゼンテーションを必要とする方へのスキルアップ支援プログラムです。姿勢・表情・話し方・ドキュメント作成ポイントなど実践的に2日間に渡り指導プログラムが組まれています。



(昨年の養成講座風景)

<お詫びと訂正>前号で間先生のお名前に間違いがございました。正しくは「間敏幸」先生です。お詫びして訂正させていただきます。

連絡・問い合わせは NJK 島影まで
 bzu03624@nifty.com 090-1812-9812

「オーシャンズ第12回定例会」の実施

黄色いカーペットを敷いたような学園内で、素晴らしい天候の中、12月14日の日曜日に午前10時からオーシャンズの第12回定例会を実施しました。今回も3カ月ぶりに集まったメンバーと、プロコン1期生と2&3期生メンバー、経営士養成講座40期の同期会よりの協賛を得て、参加者は26名の方々のご参加でした。開催場所は今回も嘉悦大学の大学院の教室をお借りして盛大に開催致しました。

第1部は、今回も第3回「道場」という講師の登竜門として門戸をたたいた中里保史さんが1時間のプレゼンを行い師範、道場主に評価を頂き、次のステップアップのためのご指摘&セッション等を頂きました。今後の新しい講師の登竜門として是非、継続していき、晴れて多くの「免許皆伝」の優れた才能のある講師を輩出したいと考えています。更に今回は、現在話題となっているノーベル平和賞受賞の16歳の「マララ・ユスフザイさん」のスピーチをVTRで見ていただき、そのスピーチの素晴らしさに感激致しました。マララさんの活動などについてメンバー間のディスカッションも行い、大変盛り上がりました。また、前回の定例会よりプレゼンした「英語塾」のワン・ポイント・レッスンの紹介もあり、受講生全員が声を出して練

習をして、実用に使える3単語による会話の勉強もしました。

今回からランチは「ポットラック・ランチ」を実施して、参加者の皆さんが食事やデザート&飲みものを各々持ち寄り、多くのメニューやボリューム、彩色豊かなデザート等を参加者全員が満喫しながらアツと言う間の1時間のランチでした。今回の成功を機会に今後も継続していく予定です。乞うご期待です。

第2部の講演は、森田よりの「水は世界を支配する！」と釜澤直美さんより「実例による品質管理手法に基づく課題の発見と解決策」更に、近藤大博さん(元『中央公論』編集長)より「司馬遼太郎さん達の訓え」と各講師の興味あるバラエティーに富んだテーマに対して参加者一同、熱いまなざしと耳を傾け皆さんの意識の高さに驚かせられました。その後、本日の新規参加者の名刺交換や情報交換をして有意義な時間を過ごしました。

第3部の懇親会は嘉悦大学に近い花小金井の居酒屋でワイワイ・ガヤガヤとあつという間の2時間を過ごさせていただきました。今回も6人の女性のご参加を戴き、とても華やかな楽しいひと時を過ごさせていただきました。

“See you again!!” (報告者：森田喜芳)



岩城秀晴先生のご逝去を悼みます

顧問の岩城秀晴先生が、1月24日にご逝去されました。謹んでお悔やみを申し上げます。岩城先生は1989年に日本経営士会に入会し、北海道支部長で長年活躍し、その後、日本経営士会の監事、顧問となり、北海道支部という一部と日本経営士会の全体で活躍されました。

私が経営士に入会したのは、岩城先生が北海道支部長の時でした。私は入会以来、岩城先生の下で総務的な仕事を仰せつかり、そのことでお付き合いを深くさせていただきました。

北海道支部がどのような活動を行うのかは、岩城支部長の良い提案のお陰で、また支部会員のお役に立つお話しをしてきていました。

私が支部長となった時には、岩城先生に指導をしていただき、本当に有難い先生でした。

監事となられた先生は、日本経営士会全体のために役立ち、会計の間違いなどの指導を行い、昨年には顧問として更にご活躍されていました。

87歳でしたが、お会いすると、仕事や経営士会のお話などを積極的に話され、とても高齢を感じることがなく、まだまだこれからのご活躍を期待していました。北海道支部会員として、岩城秀晴先生に感謝申しあげ、心からご冥福をお祈り申し上げます。
(北海道支部長 栗原 弘)



岩城先生は、北海道支部中興の祖と言っても過言ではないでしょう。かつて北海道支部から日本経営士会全体の中でも大きな功績を残されてきた、西野先生、新田先生といった功労者もおられ、過去に北海道で何回かの全国研究会議を主管され多大な実績を残して来られましたが、岩城先生はこれらの諸先輩にも劣らぬ大きな足跡を残して行かれました。

岩城先生は、本職の税理士法人事務所や「4丁目プラザ」などの経営の傍らローターリークラブの地区ガバナーや政財界の多くの役職を兼任されて、札幌市はもとより、北海道内に広くその名を知られておりました。

また、そのお人柄から豊富な人脈を持ち、それぞれの世界で頼りにされておりました、今回、日本経営士会の最高顧問として町村信孝先生をお迎え出来たのも岩城先生のお力添えによるものでした。

私は岩城先生の下で、1999年札幌での第33回全国研究会議の運営で多くの薫陶を受け、更に2010年函館での第44回全国研究会議の実行委員長として多大のご指導を頂きました。

岩城先生は地区でのMPP研究会や、幾多の会合にも気軽に出席され、適切なアドバイスで会員の啓発に務めて来られました。

何れにしても北海道支部にとって岩城先生の存在は大きく、岩城先生が北海道支部のメンバーと言うだけで、我々は安心して支部の事業の運営に当たって来られましたが、岩城先生の突然のご逝去で、大切な支柱が失われてしまいました。

これからは、岩城先生の残された数々の遺訓を胸に、岩城先生に頼らない経営士会北海道支部のあり方を見つめ直して行かなければならないと感じております。

岩城先生どうぞ安らかに眠りください。

(北海道支部副支部長 宮田軍一)

北海道支部で高橋会長と意見交換

北海道支部長 栗原 弘

高橋会長が、故岩城秀晴会員の弔問に札幌にみえた1月31日に北海道支部幹事会に出席していただきました。支部幹事より、本部への意見や感想を出してもらい、高橋会長との意見交換ができました。支部の幹事でも本部事務所に行くことはほとんどなく、日本経営士会の運営について分からないことも多いようですから、会長に様々な意見を出ささせていただきました。会長は熱心にメモを取っておられ、その後本部関係者にメモを送付されていたとのことで、感心いたしました。

幹事から本部への意見として

1. 良い点として

- ・会員に魅力があるので、自分は入会している。
- ・北海道支部の会員のネットワークが良い。
- ・日本経営士会への入会によって、有益な情報を得る部分もある。

2. 改善すべき点として

- ・経営士会の会費は高いし、会報誌以外にないので残念だ。
- ・会報誌は2月毎に1回の発行は少ない。経営士がコンサルタントとして役立つ内容にしてほしい。会報誌は仕事に役立つ情報を提供してほしい。会報誌は面白くない、と思うこともある。
- ・経営士会は組織としての活動が見えない。・東京支部問題が組織として解決できないのは残念だ。早く解決してほしい。・経営士総合研究所とは何の為の機関なのか分からない。経営士養成講座も魅力は分らない。
- ・経営士は地域や中小企業の活性化のために何ができるかを考えるべきである。本部はフォローアップしてほしい。
- ・MPPのケースが古い。

3. 会長からは

- (1) 経営士会の強みを考えて、活かして欲しい。
- (2) 経営士・経営士補養成講座を開催して欲しい。
- (3) 北海道支部には優秀な異能の方々が多いので、連携して新しい事業に取り組んでもらいたい。

との要望がありました。

「本部と支部とが『経営士』に役に立つ、組織運営をしていく」と言うことが結論でした。

支部でできることは27年度計画に取り上げたいと思います。



(幹事会)



(新年交礼会)

東北支部活動報告

東北支部

平成 27 年 1 月 31 日（土）～ 2 月 1 日（日）宮城県青根温泉『観山聴月』において第 4 回目の MPP 一泊研修を行いました。今回は 16 名の参加で 2 チームに分かれ、大変有意義な研修となり、また会員同志の親睦を深めました。新会員の積極的な参加により、東北支部の新たなエネルギーを感じます。

■山形支援センター・宮城支援センター MPP 一泊研修報告

開催日 平成 27 年 1 月 31 日（土）13:00～16:00 参加者 2 チーム計 16 名
 開催場所 宮城県青根温泉『観山聴月』
 トライアルケース 完全予約制の「はりきゅう整骨院」の創業



(参加者全員記念撮影)



(研修風景)

MPP 参加者の声



MPP 一泊研修に参加して 東北支部 茂木 昭

会場は蔵王連峰東側に位置する宮城県の青根温泉「観山聴月」という旅館で行われました。前日に大雪が降ったため少し心配でしたが無事に着くことができました。MPP 研修は今回で 2 回目となります。今回のケースは整骨院の経営改善についてどうするかテーマでした。私は現在税理士法人深田会計に勤務しており、関与先に整骨院があります。自分の担当する整骨院の経営状況と照らし合わせ、アドバイスや支援策等をリアルに考え意見を述べました。それと同時に他の先生方の意見を聞くことができ非常に勉強になりました。また、一泊研修ということもあり初めてお会いする先生方とも交流を深めることができ有意義な時間を過ごすことができました。今後も会計事務所の職員という立場で仕事を続けていくつもりです。その中で、経営士として関与先企業の継続・発展のため少しでも経営のお役に立てられるよう勉強し、情報提供や経営助言を行っていきたくております。参加させて頂きありがとうございました。



第 3 期経営士養成講座を経て、平成 26 年 11 月に経営士として登録しました八木寛彰です。この度は、登録後初となる一般社団法人日本経営士会東北支部主催の MPP 研修に参加しました。今回の研修では、「完全予約制の“はりきゅう整骨院”の創業」というテーマについて意見や考えを出し合い議論を深めました。そのなかで MPP 参加者からは、当該整骨院に対し、「主たる商品は何か」や「顧客を絞るべき」という指摘がありました。この指摘について私は、同感すると同時に私自身の事業経営に対する指摘でもあったと感じました。私も当該整骨院と同じように、出来る仕事をただ並べ相談者だれでも良いという考えを持っていました。その理由は、「特化すると顧客が少なくなるのではないか」、「顧客を絞ると売上が減少するのではないか」という思いが強かったからです。

しかし今回の研修を受講したことにより、私自身の経営について、「自分の強みは何か」、「どういう顧客に自社の商品を提供していくのか」を再確認することができました。大変貴重な経験であったと感じました。今後は、再確認した内容を実践できるように取り組んでいきたいと思っております。

10. 支部活動報告



クリエイティブひまわり経営研究所 代表 伊藤 仁 (いとう ひとし)

この度、経営士養成講座を経て経営士会に入会致しました伊藤仁と申します。私は商工会の経営指導員として三十一年勤務し、昨年早期退職をしました。その時、長年経営指導員で培った経験と人脈を活かし、少しでも小規模企業者のお役に立ちたいと経営コンサルタントを志していたところ当会の研修を知り、早速受講、無事試験合格、念願のコンサルタントの第一歩を踏み出すことが出来ました。コンサルタントとして船出したからには、各種の知識の仕入れが必要であります。そんな時、支部長よりお誘いがあり、東北支部主催のMPP研修会に参加致しました。研修では新規開業間もない個人事業者の事例であったこともあり前職での経験を踏まえながらMPPの手法も無理なく理解出来たように思います。企業分析に際し、批判的な目で見がちですが、MPPの手法は批判的に見るのではなく参加者互いの意見を尊重し、企業の実態に迫っていく手法は大変有効であると共に大変新鮮な感じを受けました。今後の企業コンサルタントにも活かしていけそうです。今後は経営士会の研修に積極的に参加し、研鑽を広めることは勿論、会員同士の横の繋がりを深め、事業者に寄り添ったコンサルタント業務を展開して行きたいと思えます。



MPP研修を振り返って 片岡 修一

経営士になってのはじめての一步が、今回のMPP研修会への参加でした。様々な年齢や経験を持つ人たちがひとつのテーブルを囲んで議論をすることで、自分にない視点が生まれることが大変勉強になりました。今回のテーマは「鍼灸院」。私が普段、あまり出会うことがない事業テーマでしたが、経営の観点から見ると根底は一緒でした。事業の創造を行っていくうえで、事業ビジョンやミッションを確立し、そして自分の強みを活かした集中と選択、これらを事業計画に落とし込むことで事業を進めていくための方向性を明確にしていく、この基本がとても重要であることに改めて気づくことができた研修会であったと思います。今後は経営士として、より実践の場において様々な課題や困難に出会うことがあるかと思えます。しかし、自分の中に基本をつくり、経営士としてもぶれない支援を行っていくよう、自立に向けたより深く学んでいきたいと強く感じております。また、様々な経営士の先輩方と出会うことで、先人の知見を自らのものにできるよう、頑張っていきたいと思えます。



MPPに参加して 東北支部 渡辺 晋也

宮城県の青根温泉にて行われましたが、前日からの積雪にもかかわらず、参加された大先輩方の熱気と、初めて参加させていただく我々新人6名(経営士補を含む)の意気込みにより、周囲の大雪をも融かすかのごとく大変有意義な討論の場を持たせたと思います。引き続き行われました懇親会やその後の延長戦におきましても、東京から参加された先生方からも話を聞けたり、みなさまの普段の活動状況等につきましても意見交換が出来るなど、今後の自身に活かせる、また行き詰った際に相談させていただける(そうな)大変貴重な時間となりました。ひとつ心残りであったのは、せっかく配慮により話題の温泉旅館に宿泊することが出来ましたので、ここの女将にもう少し現場の話を聴きたかったなと、そんな経営士としての自省でした。最後に、私は10年余りの銀行員活動を経て起業し、昨年経営士会の財務部門に名を連ねさせていただきました。現在は福島に家族と住み、仙台と福島に拠点を構え、本業の企業(起業)支援や事業再生に取り組む傍ら、地元の復興支援にも自社並びにNPO(3社)の役員として関わっております。復興は、まだまだ道半ば。今後も、みなさまの経験豊富な知識をご教示いただきながら、日々の活動に取り組んで行きたいと思えます。どうぞ、よろしく願い申し上げます。



東北支部主催 MPPに参加して 青木 幸江

平成27年1月31日土曜日から平成27年2月1日まで、東北支部主催MPPに参加して参りました。会場は、宮城県青根温泉「観山聴月(かんざんちょうげつ)」と言う、仙台駅から車で1時間30分程山に入った、趣きのある温泉でした。今回、参加した動機は、MPPの研修ですので、勿論、地方の厳しい経営環境の中での会員の先生たちのご活躍をお聞きしたかった。と同時に、「女性初の東北支部長への激励」と言う意味もあり参加をさせて頂きました。13時から佐藤光子支部長のご挨拶から始まり13時15分から研修が行われました。「完全予約制の「はりきゅう整骨院」の創業」という課題で、今回の参加者の関与先の案件でした。開院している地域の状況から代表者のプロフィールなど現状分析から始まり、今後の支援策まで、忌憚のない白熱した議論が続き、17時で閉会。その後、18時から懇親会。参加者が、ほぼ全員現役の方達で、経営士会のブランドで頑張っている姿を拝見して、「経営士会の為に頑張らなくては」と、再認識して帰路につきました。

2014年度第4回 茨城県会公開 MPP 開催結果

北関東支部

茨城県会では公開 MPP を年間 4 回開催、MPP への魅力付加のため、県外会員、賛助会員、次に会員外を招き、複数チームでの開催を心掛けています。2014 年度 第 4 回公開 MPP については、会員外と賛助会員各 1 名もご参加、東京・埼玉・南関東支部を含む、関東地区計 9 名にご参加いただき、ありがとうございます。今回は目標の 2 チーム、少数会員の茨城県会、参加者に感謝です。今回投稿では前置きを省略します。

概要を以下に示します。

1. 開催日：2015 年 2 月 7 日（土） 13：45～17：15（事前説明等、終了後検討会各 15 分間）
2. 参加者：2 チーム、計 9 名（会員外、賛助会員各 1 名、県内 3 名・県外 4 名）
3. 開催場所：ひたちなか市 ひたちなか商工会議所
4. 使用ケースコード：31-020-152
5. 題名：事業継続の適否（建設業界関連のケース）
6. 終了後検討会：質疑応答を含み計 15 分間
7. ケース選定の理由：会員に経営者が参加、事業戦略や収益計画立案等に資するため
8. 外部参加者の感想等：ほぼ原文のまま記載。

外部参加者として、初の体験であるのに、自然な形で参加いただけた様子である。

ケースメソッドの考え方を的確に捉えていただけたと推測できる。

- 1) MPP に参加し、建設業に詳しい方の専門的な知識や、経営者の自分の体験を基にした意見など、自分にはない思考法に触れられとても刺激的だった。
 - 2) 世代の異なる方々と同じテーマで話をする機会は、普通の生活の中になく、貴重な機会である。
 - 3) 講師の話聞くこともよいと思うが、一つのテーマに沿って皆で話すという手法は、双方向のコミュニケーションであり、自分の考え方が整理でき、他者の考え方に触れられ、非常に面白い。一方自分の知識やコミュニケーションスキルは誤魔化しようがなく、そういった意味でも、真剣に参加し、能力の向上に役立ちそう。
 - 4) 討議テーマの中であえて不明瞭にされている部分があるため、まずその点を互いに指摘し合い、明瞭な形に想定して討議を始める。志向の道筋を付けるトレーニングとしてよいと思う。
9. リーダーの感想等
- 1) MPP 初参加者があり、MPP への興味が湧く配慮をした。
 - 2) 第 1 段階での現状把握が大切、前半はその決定付けに時間を取り討議した。
 - 3) 思い込み、決め付けを避け、新たな意見、発見が出るような誘導を心掛けた。
リーダーが方向付けするものではないので、メンバーの発言を活発化させるべく、心掛けた。
 - 4) 最終的に新規事業の開発には、介護事業や女性目線でのアイデアを生かした事業展開まで及び、大いに盛り上がった。
 - 5) MPP は結果を出すものでなく、参加して何らかの感動を得られればよいと、参加者に感じていただけたと思う。



以上から MPP は企業経営に役立つとの感触を得ている。

参加会員の皆様のご理解、ご協力により、密度の濃い MPP になり感謝します。

よき伝統が今後も引き続きことを信じています。

（茨城県会 MPP お世話係 塚本裕宥）

「中小企業会計啓発・普及セミナー」の開催

埼玉支部

埼玉支部では12月14日武蔵浦和コミュニティセンターにおいて中小企業経営者、管理者他14名の参加者により中小企業会計啓発・普及セミナーを開催いたしました。

資料は、中小企業の実態に即した新たな会計ルール「中小会計要領」をベースとし、講師として春原和夫講師と中杉保雄講師の長年の経験を基に、会計の基本を踏まえながらも、より実践的ケーススタディを交え熱のこもった講義が行われました。

また、セミナーの合間には孫子の兵法から“人生計画たててますか”五つの視点で勝利のシュミレーションを描く「道・天・地・将・法」と“記憶力を飛躍させるポイント”など余談を交えた面白い趣向でセミナーを実施いたしました。

そのためか、参加者も熱心に講義に耳を傾けておりました。

また、当日参加者にアンケートを実施した結果以下の興味深い内容でした。

① 講義内容の理解度はどの程度でしたか。

・よく理解できた 11名 ・ある程度理解できた 3名

② この研修は貴社の経営（あなたの仕事）に役立つと思いますか。

非常に役立つ 6名、ある程度役立つ 7名、あまり役立たない 0名

研修の効果・自社の実情に合った内容だった 2名

・研修に参加して大いに啓発された 6名

・新しい情報が得られた 8名

・研修に参加して自信を得た 0名

③ この研修の全体的な印象はどうでしたか

大変良かった 6名、良かった 8名、悪かった 0名

その理由：（複数回答）

・講師の質が良い 6名 ・講師が熱心 10名 ・テーマが良い 2名

・教材が良い 9名 ・研修手法が良い 3名 ・受講料が無料 5名

・講義時間が適当 1名 ・関心に合致した 4名

上記参加者からの意見をふまえ、次回（5月23日予定）はさらに充実したセミナーの内容にしていきたいと考えております。



（レポート 中杉保雄・春原和夫）

「彩の国ビジネスアリーナ 2015」に出展

埼玉支部

2015年1月28日（水）29日（木）の2日間、さいたまスーパーアリーナにて、産学連携促進及び企業間取引拡大のための展示商談会『彩の国ビジネスアリーナ 2015』が開催されました。国内最大級のビジネスマッチングイベントであり、民間企業、金融機関、各種団体、大学、地方自治体など600余が出展しました。出展者は、埼玉県のみならず、近くは関東近郊圏から遠くは東北、北陸にも及んでいました。

昨年に引き続き、「埼玉支部」は、支援機関の一角に「展示ブース」を設けました。今回は、次の二つのカテゴリーに分けて出展しました。

- ① 相談内容を“ビジネスレシピ”と名付けてPR・相談
- ② NPO「鴻巣こうのとりを育む会」とのコラボレーション

【カテゴリー①】 相談内容を“ビジネスレシピ”と名付けてPR・相談

来場者の関心が高いと思われる相談項目を、A4用紙1枚に「メニュー一覧」として取り纏め、メニューごとの担当責任者が相談内容をA4用紙1枚にまとめました。これを料理のレシピに例えて“ビジネスレシピ”と称して、チラシを印刷、来場者へPRし、相談に乗ることにしました。また担当責任者は各自の“レシピ”を映像に収録しブースで繰り返し放映することで来場者の関心を引き付けることができました。

なお今回は埼玉支部のブースに来る来場者だけでなく、手分けして、他のブースに出かけてPRしました。下表のように、今回11件のメニューを用意しましたが、キャッチコピー的に表現したためか、50枚用意したチラシが売り切れるメニューがありました。

以上の結果、十数件の相談を受けることができました。

「メニュー一覧」とした項目

I 経営士会を活用して、マネジメント力を磨こう	VII 会計を経営に活かす
II 顧客に感動を提供する第5次産業とは	VIII 補助金申請のお手伝い
III 伸びが期待できるシニア消費の具体的な対応策	IX 人事関係助成金申請のお手伝い
IV 社員のやる気を高めるリーダーのアプローチ法	X 給与計算業務を承ります
V 創業・新事業立上げ時に重要なビジネスモデルとは	XI 労務管理の課題解決
VI 経営計画策定のお手伝い	

10. 支部活動報告

[カテゴリー②] NPO「鴻巣こうのとりを育む会」とのコラボレーション

今回の新たな試みとして、社会貢献のために埼玉支部とNPO「鴻巣こうのとりを育む会」とのコラボレーションによる展示を追加しました。

<NPO「鴻巣こうのとりを育む会」の概要>

NPO「鴻巣こうのとりを育む会」（以下NPO）は埼玉県鴻巣市に拠点を置き、最終ゴールとして、コウノトリの放鳥を目指すNPOです。

コウノトリは戦前までは、日本各地に飛んでいました。しかし戦時中の乱獲と戦後の農薬散布によるエサ不足で一旦絶滅しました。コウノトリは肉食動物であり、ドジョウやウナギ、カエルなどの水場の小動物を好んで食べるからです。

鴻巣市は「コウノトリ伝説」の町であり、当NPOはコウノトリ復活に意気込んでいますが、当面、エサ確保のため、無農薬米の栽培実験に取り組んでいます。

<何故、埼玉支部が支援するようになったのか>

当NPOの副理事長である川島秀夫氏は、鴻巣市在住の経営士です。川島会員は、環境に非常に興味があり、国土交通省の事業である「荒川太郎右衛門地区自然再生事業」など、様々な環境ボランティア活動を行っています。また埼玉支部認定のCSR研究会の会員です。

昨年の冬、埼玉支部認定のBMキャンパス研究会を立ち上げる準備をしていたタイミングに、自然再生事業を未来永劫続けるには「ビジネスモデル」が必要とのことで、当研究会の事例としてビジネスモデルを検討することにしました。

<展示内容について>

「コウノトリが昔のように荒川流域に飛来するためには、どのような自然環境が必要か」をテーマに、無農薬米栽培のパネルを展示して、来場者に環境保護の必要性を訴えました。

NPOから延べ10名以上の方々が展示ブースに来られ、熱心に説明されました。

<今後の進め方>

当NPOだけでなく、「コウノトリ復活」のミッションの下、関東一円の諸団体が参集したとのことで、埼玉支部も社会貢献としてマネジメントの面で協力したいと考えています。

「コウノトリ復活」の先輩格である兵庫県豊中市の事例を調査中です。



(埼玉支部のブース)



(パネル(左)と動画(右))

(中杉保雄・小西洋三)

TAMA 研平成 27 年 1 月度研修会でシンポジウム開催

東京支部

東京経営支援センター TAMA マネジメント研究会（東京・立川。毎月第 4 土曜日 14:00～17:00 開催）は、去る 1 月 24 日（土曜日）、平成 27 年度の第 1 回研修会・総会を開催しましたので下記報告します。

第 1 部は、松尾實会員により「昨年の回顧と本年の展望」と題して内外経済関係スケジュールの説明がありました。とりわけ「規制改革国会」での農協・医療・電気・労働などの争点、原油価格下落、中国不動産バブル崩壊の影響、及び、TPP 閣僚会合（4 月予定）、日本・EU EPA 交渉の大筋合意、中韓 FTA 発効など経済や企業経営環境に変化をもたらす世界経済動向の説明がありました。

第 2 部は、日本経済の将来を睨んだ中小企業経営、縮小する国内市場に加え海外市場を如何に開拓・拡大していくべきか、又海外進出を成功させるには、などを念頭に、自由討論形式による「シンポジウム：アジア市場とこれからの中小企業」と銘打ち、横井三郎会員の司会の下、一人 20 分の持ち時間で 3 名のパネラーにより下記の報告・説明がなされました。

- ①「中国での"モノ造り"」（篠澤勇作会員）："モノ造り"の基本は"人造り"にあり、"人造り"の管理・運営が出来ない企業は、現地で存続、成長し収益を確保できるような企業にはなれない。全員参加による生産マネジメント方式（TPM）と 6S 活動を展開することにより生産拠点運営を上手に持って行くこと、との報告がありました。
- ②「中国に進出する企業のリスクと対応」（山本忠会員）：中国経済の変遷、現状と市場の変化、今後の見通しとビジネスの動向及びビジネス・リスク、中国進出に際しての留意点など簡潔な説明が行われました。特に「世界の工場」から「世界の市場」へ変貌している中国市場の有望分野について触れ、進出するビジネス・リスクと対応について報告がありました。
- ③「ASEAN の現状と将来」（長谷川正博会員）：昨今の反日運動の激化、人件費高騰など、中国リスクの高まりに伴い、「チャイナ・プラス・ワン」としての ASEAN 地域の活用が浮上している。ASEAN・中国自由貿易協定（ACFTA）の活用、2015 年末までに誕生する計画である ASEAN 経済共同体（AEC）による消費市場拡大も見逃せない。これらの状況を踏まえた、中小企業がとるべきビジネスの攻め口についての説明がありました。

3 名のパネラーの説明終了後、短時間ながら、活発な質疑応答・討議が行われました。

第 2 部終了後は、TAMA 研の平成 27 年度総会に移り、昨年度の研修実績・決算報告の後、本年度の活動方針等の説明・討議が行われました。本年度の活動方針（活動基本コンセプト）を、「グローバル化下、国際競争の激化に対処した企業力強化へのコンサルティング能力・知識の向上」とし、多摩地区の中小企業を主とし、国際競争力の向上にお役に立てるよう会員一同更なる自己研鑽・相互研修を通じた自己能力アップを図ることを再確認しました。又、研修活動目標を、①中小企業の経営改善、経営革新を通じた企業力・経営力向上への支援、②中小企業の国際化、グローバル人材育成への支援、③中小企業の事業継承への支援、を三本柱としてこれに沿った活動を進めることとしました。TAMA 研は、全会員に活動内容や情報の共有化を周知して頂くための機関紙「TAMA 研かわら版」を隔月（原則偶数月月初）に発行しており、ここに「マイ・オピニオン」コラムを設け会員の発表の場を提供しています。

なお、本研究会に関するお問い合わせは横井三郎会員（メールアドレス:saburo-yokoi@muc.biglobe.ne.jp）宛にお願いします。



（1 月 24 日 タマ研 1 月研修会）

テクニカルショーヨコハマ 2015 に日本経営士会が出展しました

南関東支部 神奈川支援センター

テクニカルショーヨコハマ 2015 は2月4日(水)～6日(金)の3日間、パシフィコ横浜展示ホールで開催されました。出展の目的は日本経営士会の広報と具体的な案件を獲得することです。来場者は3日間で約3万人でした。今年の特徴は畑センター長の発案でビジネスイノベーションアワード受賞企業の中からもミニプレゼンに参加いただくことでした。ミニプレゼンと出展者セミナー講師とテーマ名を下記します。

■ミニプレゼン

ミニプレゼン題名	プレゼンター名	ミニプレゼン題名	プレゼンター名
社員持株で売り上げ3倍増	ジャパンプローブ(株) 小倉幸夫氏	リーダーの話し方と部下のやる気促進	片山 信雄
経営改革こそが経営発展のエンジン	フジプロダクト(株) 陶山典之氏	再生可能エネルギーは地域再生の柱に	石井 政夫
環境マネジメントとゼロエミッションへの取り組み	大器機械(株) 川合章夫氏	コンパクトエコシステム導入によるCSR事例	高嶋 裕子
問題社員の実務対応	社労士・望月昭男氏 (特別参加)	組織の創造性パワーを高めるポジティブメンタルヘルス	小池基美男

写真の様に多くの聴講者が熱心に聞き、どこのブースより活気があったと思います。

■出展者セミナー

中小企業経営に活かす実践危機管理	市村 一彦
------------------	-------

■相談コーナー来訪者などの傾向

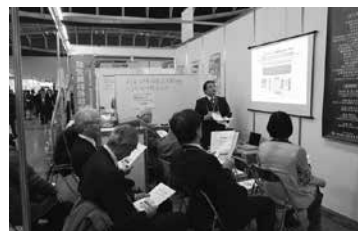
今回も事前案内をホームページ、メルマガ、FAX等を駆使した結果、経営相談者(経営士)と名刺を交換した人数は65人でした。具体的には経営士に興味があるとか、経営士養成講座を受講したい人は8名、ビジネス・イノベーションアワードに応募したい企業が2社、日本経営士会とコラボしたいなど経営コンサルタントで同業者などでした。それぞれ今後フォローしていきますが、データベースとして残し、メルマガ等で神奈川経営支援センターの案内などに使う予定です。



(すっかり準備が出来た日本経営士会のブース)



(アワード受賞企業のミニプレゼン)



(小池経営士による「組織の創造性パワーを高めるポジティブメンタルヘルス」ミニプレゼン)

■かながわビジネスオーダーション 2015 も同時開催

テクニカルショーヨコハマ開催に併設して2月5日「かながわビジネスオーダーション 2015」が行われました。「かながわビジネスオーダーション」は公益財団法人神奈川中小企業産業振興センターが創業支援事業の一環として毎年「テクニカルショーヨコハマ」に合わせて開催されています。

10. 支部活動報告

昨年(2014)の8月より神奈川県下の創業企業の募集を行い、今年は44社の応募があり「新規性・独創性」「市場性・将来性」「現実可能性」「経済・社会貢献性」「熱意・論理性」について審査が行われました。審査員は中小企業センター幹部職員や銀行、神奈川技術士により構成された審査員で「創業ビジネスプラン」審査と「プレゼンテーションショー」による審査が行われ、神奈川県として優秀企業に対し知事賞、奨励賞、団体賞等が授与されました。

神奈川経営支援センターも2日間の「ビジネスプランプレゼンテーション」で審査に参加し日本経営士会賞を決定しました。当会は株式会社グローカリズム「モバイル端末の動きを集計・解析する情報プラットフォームの開発」を選出し、日本経営士会賞を南関東支部小林支部長が賞状と副賞を授与し、神奈川県の中小企業支援事業の大きな柱である創業支援事業に貢献しました。

(テクニカルショウヨコハマの記事：福井 浩

かながわビジネスオーデーション2014の記事：津田 高)



(日本経営士会賞を小林南関東支部長が授与)

新春特別講演&賀詞交歓会

南関東支部 神奈川支援センター

恒例の新春賀詞交歓会が、1月10日(土)、ホテル横浜キャメロットジャパンで開催されました。当日は、天気も穏やかで総勢45名の参加者となり盛り上がりました。山梨、静岡、東京と各支援センターからも参加をいただきました。また、関連機関から神奈川県行政書士会、(株)パソナ、横浜市などからも参加していただきました。

当日は第一部として特別講演を催しました。タイトルは、「創業・起業支援の最前線から学ぶ成功ポイント」と題し、「中高年のゆる起業」をテーマに、銀座セカンドライフ株式会社 代表取締役 片桐美央氏に講演をいただきました。偶然にも当日はテレビ朝日の「若大将ゆうゆう散歩」の講演内容の収録があり、テレビ朝日よりクルーが見え収録をしていました。放映は2月上旬と言うことです。

第二部の賀詞交歓会では、高橋会長の挨拶に始まり、来賓の神奈川県行政書士会 法務部斎藤部長から来賓のお言葉をいただき、小林南関東支部長の乾杯の音頭で盛大に始まりました。

新入会員の自己紹介や会員同士の名刺交換など、時間は順調に進み、会は盛大の内に戦後70年を迎える節目の年に、経営士会も節目を迎え会員が活性化に向け新たな気持ちで迎える如く熱気が溢れた賀詞交歓会になり、会場は盛り上がりの中、佐藤理事の中締めで無事終わりました。

関係者皆様のご協力にお礼申し上げます。

(宇賀神 記)



(片桐社長 講演)



(小林支部長乾杯)

10. 支部活動報告

「神奈川県行政書士会」と提携企業経営管理講座を開講 — 受講者 13 名 —

南関東支部

3年前より、経営士会入会の為の提携について神奈川県行政書士会と打ち合わせを行い意見の調整を行ってきましたが、行政書士会向け「企業経営管理」講座を2月4日より開講するに至りました。

開講に先立ち、神奈川県行政書士会から講座内容に関する要望やオリエンテーションの開催の希望があり、調整した結果、12月17日開催の事前オリエンテーションには受講希望者31名の参加があり、小林支部長の「経営コンサルタントの業務」について、続いて畑センター長が「経営士とは・日本経営士会入会後の支援」について説明致しました。講座受講の申込みを開始した結果、1月15日の締め切り日には神奈川県行政書士会から、13名の受講応募者があり、予想以上の参加者に行政書士会の事務局も満足し、経営士会への評価を高めていただきました。

2月4日、神奈川県行政書士会の会議室を使用して、講座を開講しました。

初日から行政書士会の受講者の皆様は真剣に講座、SWOT分析に取り組み、3時間の講義を終了しました。今後も継続させたいとの神奈川県行政書士会の要望もいただき、後4日間、講座を成功させ、経営士会入会へとつなげていきたいと思っております。

尚、講師陣につきましては神奈川経営支援センターの総力を上げて最強の布陣をひくことが出来ました。

(記 津田)

講座スケジュール

	科目	内容
2月4日(水)	中小企業の経営戦略論 (小林登雄)	・戦略マネジメントの基本 ・経営戦略の策定プロセス ・経営戦略の具体化計画 ・経営戦略についてのコンサルティング
2月12日(木)	マーケティングとイノベーションで経営革新 (畑和浩)	・マーケティング ・マーケティング戦略 ・成長戦略 ・競争戦略 ・中小企業のイノベーション ・行政書士のマーケティングでイノベーション
2月20日(金)	顧客獲得戦略 (武田哲男)	・顧客満足 ・不満足の構造 ・顧客の本音を探る顧客不満足度調査の方法 ・顧客の感動を創る ・顧客に強く好かれる経営戦略
2月26日(木)	建設業経営コンサル技法 (天本武)	・中小建設業の経営課題 ・経営課題解決のための戦略 ・環境変化に打ち勝つ社長の条件 ・異業種を知りマーケティングの導入
3月6日(金)	支援型経営コンサル技法 (間敏幸、大野信行)	・支援型コンサルタントとは ・コンサルタント活動に必要な基本的学習課題 ・支援型コンサルタントに求められる知的要素

新年賀詞交歓会「記念講演」

中国支部

1月24日（土）、広島市の「アークホテル広島駅南」で新年恒例の中国支部賀詞交歓会が開催されました。最初に「幹事会」が行われ、①魅力ある中国支部づくり ②平成26年度支部活動報告 ③平成27年度事業計画（土補養成講座、MPPセミナー、会計セミナー他）等について討議し、中国支部の方向性を検討しました。

次いで「記念講演」が行われ、「八千代病院、メリーハウスの成功秘話」と題して、医療法人社団八千代会八千代病院理事長 姜（カン）仁（イン）秀（ス）氏の講演が行われました。姜（カン）理事長は、広島県安芸高田市で「八千代病院」、広島市内で介護付有料老人ホーム「メリィハウス」など9施設を展開され、従業員1,100名・入居者1,700名の事業規模で“おもてなしの心”を推進して、大成功を収められている実業家です。

戦時中、日本に強制連行されたご両親が苦勞された話、「野口英世」の本に出会って医者になる夢を抱きながらも在日朝鮮人としての差別に遭い、不合理な事件に巻き込まれて挫折しつつも積極的陽性を持ち続け「マイナス・ハンディーを強力なパワーに変えて」病院の開業に至ったお話には、出席者一同感動しました。以来20数年が経過し事業は順調に拡大し、広島韓国商工会議所会頭や全国の韓国商工会議所副会頭を歴任され、慶南大学名誉博士、中国吉林省の孤児支援施設「新星館」を開設、NPO法人広島国際交流センター理事長など日韓友好活動にも積極的に取り組んでおられます。又、個人的趣味の世界では、アマチュア・ハムで世界各国の仲間と毎日交信されており、専門誌にも取り上げられた日本一の巨大アンテナを持つ「7J4AAL」のコードは有名です。

ご講演に対し、経営士会会員から“離職率の高い業界にあって職員定着率が非常に良好なのはなぜですか？秘訣を教えてください。”“1千名を超える社員の教育を、どのようにして行っておられるのでしょうか？”など様々な質問が相次ぎ、理事長から一つ一つ丁寧に組織運営のポイントになるマネジメント法の現場実務をお答えいただきました。

講演終了後「中国支部会員」16名が参加して約2時間 和気藹々楽しく歓談、平成27年の新しい幕開けを飾る素晴らしい「賀詞交歓会」となりました。（文責：藤本賢司）



（姜理事長）



（講演会場）



（賀詞交歓会の記念撮影）

平成 27 年賀詞交歓会開催

四国支部

四国支部では、平成 27 年 1 月 12 日（月・祝）に賀詞交歓会を開催しました。当日は山間部での雪予報があり心配しましたが、香川、愛媛、高知より 13 名の参加となり、昨年にかけて 40 代を中心とした新生四国支部のメンバーとなりました。

まず植木四国支部長より年頭の挨拶として、来年秋の大きなイベント（全国研）開催を控え会員数は少ないが、少数精鋭で四国内で一致団結していこうということでした。続いて東原副支部長の乾杯音頭で各会員それぞれの分野での談笑に入りました。また、直近で新会員となった多田羅会計事務所の丸山浩三氏の紹介となり、またもや 40 代の会員ということで新しい風を吹き込んでくれることと期待しております。

経営革新等支援部門からは、東原副支部長より昨年の動きと今後についての話があり、今年も引き続き本部との連携をして進めていく旨の抱負を述べました。中でも地域の関係機関との連携支援が重要であるとのことでした。

宴の中ほどで、連絡事項として、香川経営支援センターの和泉会員が、講師として 1 月 16 日に開催される会計啓発・普及セミナーの案内があり、セミナーと合わせて相続等の無料相談会もあるとのことと報告がありました。続いて 2 月の例会の案内として同じく香川支援センターの岩井会員より日程の調整と講師と講演内容の案内があり、今回は、2 月 6 日午後 7 時より高松テルサにて東原副支部長が講師として開催の予定となっております。

最後に、福祉サービス第三者評価部門より伊賀、川井両会員より昨年末までの活動報告があり、外部評価機関として人体制が整って香川県に申請をし、現在ヒアリング待ちとの連絡を受けました。県内では香川県社会福祉協議会の独占状態にあり、恒常化した体制に一石を投じるべく活動しております。

来月にも香川で会員が増える予定があり、各県でもなお一層の活動の活発化を目論んでおります。四国支部の会員増強活動が、小さいながらも爆発力のある支部にしていこうと思っております。

(事務局)



(植木支部長よりの年頭の挨拶と経営改善支援チーム立ち上げ発表をする岩井事務局長)

台湾・徳明財經科技大学で「○△□でわかる ドラッカー」の講義。大成功理に終わる

南関東支部 静岡支援センター 山本 英夫

2014年12月6日～8日までの3日間、台湾・台北市にある徳明財經科技大学において一般社団法人日本経営士会会員の山本英夫が（南関東支部・静岡経営支援センター長）独自のプログラムである「○△□でわかるドラッカー」の講義をおこないました。

これは、台湾支部の会員である張銘江会員の仲介によるもので、張先生が理事をやっている関係上、同大学での講義の運びとなったものです。張先生と私は20年来の知人であり、ここ数年来「○△□の経営」プログラムを契機としてその研究を進められていたとのこと。同大学でもこのような試みは初めてだということで、張先生は大学と事前の打ち合わせを密に行ったとのこと。最初にワークショップを行い、体感していただき、その上で理論的解説をしていくという進め方をすることに決めました。ちなみに、私が日本語で講義をして、それを張先生に通訳していただきました。

講義としては、同大学の先生と企業の経営者層の参加者を対象とした2日間のコースと学生を対象とした1日コースがありました。いずれも9時30分から17時30分、1日6時間の内容です。

2日間コースの参加者は、同大学の徐守徳校長と蘆瑞山開発部長を始めとして経営学分野の先生が4名、そして同大学で募集した上場企業4社9名、計15名。演題は「○△□の図解でわかるドラッカー」の2コースで講義を行いました。

私は急きょ同大学の客員教授を拝命され、「講師・山本英夫教授」ということで講義を行った次第です。

講義の内容は、山本独自のプログラム「○△□の経営」を基本としたもので、その上で「ドラッカーのマネジメント」を理解してもらう、というもの。基本テキストとしては、300ページにもわたる「○△□の経営」の4級4講座、3級4講座の内容のものを使用しました。基本的には、新たに作成したプレゼンスライド資料（約1000枚）を基にして、今回のために特別に用意した「カードでわかるドラッカー」プログラムをメインとしたワークショップからスタートしました。

学生対象の1日コースは、2年生から4年生で希望者参加の単発ゼミのような形で進めましたが、こちらはとにかく、ワークショップ一色でパワーポイントスライド解説は一切やらないで進行したとのこと。

いずれにしても、同大学では初めての試みであり、期待以上の成果が見込めそうだということで大変に実りのある講義だったとの評価をいただきました。

台湾支部ではノウハウ契約結ぶことができ、今後のビジネスの展開にも可能性を持たせていただいたとお礼をいただき、講義は成功裏に終了しました。

開催にあたってご協力いただきました台湾支部の皆様、張先生に誌上をお借りしましてお礼申し上げます。



12. 支部活動予定

支部研究会等参加募集案内

【北関東支部】

北関東フォーラムのご案内

1. 目的：(一社)日本経営士会 北関東支部の活動内容を広く知っていただき、経営ビジネス) 支援の輪を広げたい。 (茨城県中小企業家同友会と経営士会北関東支部との協働を図る)	
2. 会場：久慈サンピア日立(〒319-1233 日立市みなと町 6-1) TEL 0294-53-8000 メール nbs@k-sunpiahitachi.com URL http://www.ks-hitachi.com 経営士会員の宿泊場所です。	
3. 期日と内容：2015年5月22日(金)～23日(土)	
5月22日(金)(経営士会員)	5月23日(土)(同友会と合同)
13:00～16:30 見学会 1. 日立製作所 小平記念館(日立製作所の歴史を展示) 2. 日立アプライアンス 多賀事業所(洗濯機等白物家電品を生産) 1→2→会場 宿泊先バスで送迎	09:00～ 受付(会場内会議室) 09:30～11:30 報告・説明会と担当 1. 経営士会の概要:皆川勝弘 2. 経営支援の事例:橋本琢磨 3. 中国大連等の海外紹介:塚本裕有 4. ケースメソッドの概要:塚本裕有
17:30～18:30 会員報告会	11:30～13:00 講演会 茨城県の観光事業の紹介と懇談 講師:茨城県観光物産課 橋川栄作副参事
18:30～20:30 情報交換・懇親会	13:00～13:30 昼食・解散
1. 参加費:¥15,000(当日払) 2. 申込:茨城県会 塚本裕有あて(4/10まで) TEL/FAX 0294-37-5308 メール:tsuka-660301@rice.ocn.ne.jp 3. 集合:5/22 1) JR利用 13:00までに日立駅 2) 自家用車 12:15までに 久慈サンピア日立 駐車場	

【埼玉支部】

「環境経営士」養成講座開催のお知らせ

講座名	開催日時	開催場所
ベーシックコース	H27年4月4日(土) 10:00～16:30	かわぐち市民パートナーショップ 会議室4 埼玉県川口市川口1丁目1番1号 キュボ・ラ本館棟 M4階 TEL:048-227-7633
アドバンスコース	H27年4月5日(日)・4月26日(日) 10:00～16:30	かわぐち市民パートナーショップ 5日は会議室4、26日は会議室3 埼玉県川口市川口1丁目1番1号 キュボ・ラ本館棟 M4階 TEL:048-227-7633
◆詳細は下記までお問い合わせください 事務局:一般社団法人日本経営士会埼玉支部「環境経営研究会」高橋洋子 TEL:090-8170-4108 E-MAIL:YOUKO_TAKAHASHI@TITAN.OCN.NE.JP 本部HP HTTP://WWW.KEIEISHIKAI.COM/		

【東京支部】

MPPのご案内

1. 開催日:2015年3月14日(土)
2. 時間:13時～16時 受付:12時30分
3. 場所:東京経営支援センター 大門事務所 セントラルビル4階 NPO IAI ジャパン内 〒105-0012 港区芝大門2-2-7 http://www.keieishi-tokyo.com/officemap.html
4. 会費:1,000円 当日持参願います 5. 募集人数:先着8名(申し訳ありませんが8名で締め切らせていただきます。)
6. ケース(案) トライアルケース 人材流失を防ぐ評価制度の確立
7. 申込先:tokyo-sb@ktd.biglobe.ne.jp (東京経営支援センター) 又は、Ohnoy38@nifty.com (大野) 又は、FAX:03-6435-9028 まで

支部研究会開催予定

【東北支部】 * MPP 研修(福島支援センター) 3月21日(土)13:30～16:30 郡山市民文化センター * 支部報告会及び記念講演 5月23日(土)10:00～16:30 シェルブルル仙台	* BM キャンパス研究会 3月13日(金)19:00～21:30 浦和コミュニケーションセンター第8集会室 * 公開研修会 3月21日(土)13:00～17:00 武蔵浦和コミュニティセンター * CSR 研究会 3月23日(月)18:00～20:00 シーノ大宮桜木公民館5F 会議室 * BM キャンパス研究会 4月10日(金)19:00～21:30 浦和コミュニケーションセンター第4集会室 * 公開研修会 4月12日(日)13:00～17:00 武蔵浦和コミュニティセンター * CSR 研究会 4月20日(月)18:00～20:00 シーノ大宮桜木公民館5F 会議室	ホテルグランドビル市ヶ谷2F * TAMA マネジメント研究会 3月28日(土)14:00～17:00 三多摩労働会館 * 一木会 4月2日(木)15:00～17:00 ホテルグランドビル市ヶ谷2F * TAMA マネジメント研究会 4月25日(土)14:00～17:00 三多摩労働会館 * 一木会 5月14日(木)15:00～17:00 ホテルグランドビル市ヶ谷2F * TAMA マネジメント研究会 5月23日(土)14:00～17:00 三多摩労働会館	* 組織開発研究会 3月14日(土)10:00～12:00 大和市勤労福祉会館 * 経営財務研究会 3月14日(土)13:00～15:00 かながわ県民センター * 支援型コンサルタント研究会 3月15日(日)10:00～13:00 かながわ県民センター(横浜)307会議室 * 販路開拓マーケティング研究会 3月21日(土)10:00～12:00 ホテルメッツかまくら大船会議室 * 経営財務研究会 4月11日(土)13:00～15:00 かながわ県民センター * 販路開拓マーケティング研究会 4月18日(土)10:00～12:00 ホテルメッツかまくら大船会議室
【北関東支部】 * 茨城県会月例会 県会会員会議(総会)準備 3月14日(土)13:30～16:30 ひたちなか商工会議所 * 茨城県会月例会 (県会会員会議準備、北関東フォーラム準備) 4月11日(土)13:30～16:30 ひたちなか商工会議所	* 一木会 3月5日(木)15:00～17:00	【北関東支部】 * 経営士懇話会 3月6日(金)17:00～19:00 TSビル16F、パソナ(株)横浜支社会議室	* MPP 研究会 4月25日(土)13:00～19:00 かながわ県民センター
【埼玉支部】 * 環境経営研究会 3月7日(土)13:00～17:00 川口市市民パートナーショップ			

インフォメーション

「平成27年度通常総会」のご案内

第61回通常総会の日程は、下記の通り決定いたしました。
会員皆様には、ご出席いただきますようお願い致します。

日 程：平成27年6月12日（金） 14：30～16：30

会 場：弘済会館 4階「萩」

〒102-0083 東京都千代田区麹町5-1 TEL：03-5276-0333

《開催予定研修・セミナーご案内》

研修・セミナー名	日 時	開催場所	詳 細	申し込み法
NJK 女性経営士の会 (平成26年活動報告及び平成27年度活動方針説明会開催)	平成27年3月7日(土) 13時～	溜池山王 T-FRONT3階	由井文江先生の基調講演あり(講演テーマ:女性の活躍推進ポイント) 参加費:会員2,000円, 一般5,000円	当会HP、「最新情報」をご覧ください
環境経営士養成講座 ベーシックコース	平成27年3月14日(土) 9時30分～16時50分	日本経営士会 本部会議室	募集人員:20名 受講料:10,000円	当会HP、「環境保全活動のご案内」をご覧ください
環境経営士養成講座 アドバンストコース	平成27年3月21日(土) ～3月22日(日) 9時30分～17時 (2日間)	日本経営士会 本部会議室	募集人員:20名 受講料:20,000円	当会HP、「環境保全活動のご案内」をご覧ください
第41期経営士養成講座	平成27年4月4日(土) ～5月10日(日) 9時～(土・日を中心に 11日間)	LEN貸し会議室 アピアン四谷	募集人員:20名 受講料:150,000円 ・補習講座、リクエスト講座あり	当会HP、「経営士総合研究所からのお知らせ」をご覧ください
第3回経営支援アドバイザー養成講座	平成27年5月30日(土) 10時～18時30分 5月31日(日) 9時～17時(2日間)	四谷駅前レストラン会議室 (OHORI4・5)	募集人員:20名 受講料:30,000円	当会HP、「最新情報」をご覧ください

《訃報》謹んでご冥福をお祈り申し上げます。
会務に多大のご尽力をされました。

*岩城 秀晴会員

(北海道支部 会員 NO.2871)

平成27年1月24日没(享年87歳)

編集後記

今回号では、特集としてMPPについて語っていただきました。会員の皆様には、更に積極的にご参加いただきMPPをご活用下さい。

また、新春懇談会で講演された、経済産業省関東経済局勝本課長のお話より、平成26年度の補正予算について紹介させて頂きました。次回号では、平成27年度の国の予算より有益な情報をご案内したいと思います。全国研「成田大会」の記事もご期待下さい。(田中)

第 49 回経営士全国研究会議（成田） 「研究論文募集」

経営士総合研究所、千葉支部実行委員会

第 49 回全国研究会議成田大会は、64 周年の大会にあたります。

この全国研は、日本経営士会が社会に向けて、経営士の研究論文として情報発信することに主眼をおいておりますので、会員各位の応募をお待ちいたします。

今大会の包括テーマは、安倍内閣も推奨している地方活性化に向けたもので、経営士としての力量が大いに発揮できるものです。是非この機会に、経営士各位の日頃の研究成果を論文にして発表されます様をお願いします。

— 包括テーマ —

「地方創生」

（副題）～観光振興により、地域の創生へ～

募集要項

1. 応募資格：一般社団法人日本経営士会 会員
2. 論文テーマ：①包括テーマに準拠するもの
②その他、経営士としてのコンサル活動をテーマにしたもの
3. 事前申請：応募を希望される場合は、平成 27 年 5 月 20 日（水）までに氏名、会員番号、支部名、論文テーマを E-mail にて本部事務局へ申請してください。
4. 執筆要綱：日本経営士会研究論文執筆要綱による
5. 論文締切り：平成 27 年 6 月 30 日（火）
6. 応募方法：E-mail またはデータで下記へお送りください。
一般社団法人日本経営士会 経営士総合研究所
〒 102-0084
東京都千代田区二番町 12-12 B.D.A. 二番町ビル
E-mail office@keieishikai.com
7. 論文審査：経営士総合研究所により審査し、27 年 8 月中に結果をお知らせします。
8. 論文発表：平成 27 年 10 月 12 日（月）第 49 回経営士全国研究会議（成田）において行います。
9. 論文賞：賞状及び副賞（最優秀賞 10 万円、優秀賞 5 万円）

三井住友信託銀行100%出資。安心してご相談ください。

三井住友トラストL&Fの 不動産活用ローン

経営士の皆さまへ!

皆さまのお客様にお金に関するこんなお悩み、ありませんか?

銀行に融資を断られたけど、
融資を受けたい……。

個人事業主 Eさん

キャッシュフローを
改善したい

会社社長 Bさん

消費税の支払いが
滞ってしまって……。

個人事業主 Cさん

父の所有する
不動産を担保に
法人で借入できますか?

会社社長 Gさん

新規事業を
はじめたいなあ……。

会社社長 Aさん

決算内容がよいのですが、
融資は可能ですか?

会社社長 Dさん

資金用途は自由、最長25年のご返済
融資額は最大10億円まで

ビジネスチャンスを見逃さないためのおすすめの1枚!

事業資金専用

不動産担保型のカードローン

リボ・オン



不動産活用ローン(ビジネスコース/フリーコース)の融資条件◆融資額:300万円~10億円◆適用年率:変動金利型4.90%~8.80%(短期プライムレート年率1.475%+3.425%~7.325%[2015年2月1日現在])◆実質年率:15.00%以下(融資事務手数料込み)◆返済期間:1年超~25年以内◆返済回数:13回~300回◆返済の方式:元利均等返済・元金均等返済◆融資事務手数料(税込):融資金額の2.16%◆遅延損害金:年率19.50%◆解約違約金:返済元金の2.00%◆担保:不動産/債権(抵当建物の火災保険金請求権等に質権を設定させて頂く場合がございます)◆連帯保証人をお願いする場合がございます。※お申込みの際、当社所定の審査がございます。※融資条件の確認をし、借りすぎにはご注意ください。



三井住友信託銀行グループ

三井住友トラスト・ローン&ファイナンス

(略称:三井住友トラストL&F)

関東財務局長(7)第01092号 日本貸金業協会会員 第000338号

業務推進部 03-6435-0585

三井住友トラスト・ローン&ファイナンス株式会社

〒105-8574 東京都港区芝三丁目33番1号 三井住友信託銀行芝ビル18階

返済等でお悩みの方は、日本貸金業協会 貸金業相談・紛争解決センターまで。0570-051-051 (受付時間 9:00~17:30 休:土、日、祝日、年末年始)